

DOWAS NEWS

2016

Vol19 No.1



- 「『特産情報』が高知の横田きのこを紹介」
大塚耕司(海洋深層水利用学会ニュースレター編集委員) … 1
- 「事務局交代のご挨拶(前事務局から)」
田中祐志(前事務局長 東京海洋大学学術研究院教授) … 2
- 訃報 … 2



海洋深層水利用学会

『特産情報』が高知の横田きのこを紹介

大塚耕司（海洋深層水利用学会ニュースレター編集委員）

日本特用林産振興会が毎月発行している情報誌『特産情報』2016年3月号に、高知市でえのきたけを生産している横田きのこ(有)が紹介されました。記事は「シリーズ2016きのこ生産者を訪ねて」の3回目として掲載され、「海洋深層水を活用したえのきたけ栽培 時代の波を独自のアイデアで克服 成分、食感、味で差別化を実現」というタイトルで、社の2代目、横田慎二現代表が取り組んできた、海洋深層水を用いたえのきたけ開発秘話が取り上げられています。

横田きのこは、昭和53年に創業者の横田岬一氏が設立し、岬一さんの次女の尚子さんと結婚した慎二さんが2代目として横田きのこを引き継いだということです。社を継いだ当時のえのきたけ業界は、大規模化、低価格化の波が押し寄せてきており、たいへんな危機感の中、高知県が推奨してきた海洋深層水を使った商品開発を試み、試行錯誤の上、平成14年に『極み逸品 高知えのき茸』の商品名で販売が開始されたということです。

現在は『極みえのき』という商品名で売られており、その成分は、普通のえのきたけに比べて、カルシウム2.6倍、糖類1.5倍で、歯ごたえがあって甘みがあること、きのこ特有のえぐみが少なく、店の棚もちが長いなど、非常に高い評価を得ているということです。売り上げも順調に伸び、現在は年間420トンのえのきたけを生産しており、昨年から新たにつまみ菓子などの商品開発がスタートしているそうです。これには、次女のこのみさんも大きくかかわっているということで、きのこ経営3代目へのバトンタッチの準備として紹介されています。



記事に掲載された横田慎二さんの写真

事務局交代のご挨拶（前事務局から）

田中祐志（前事務局長 東京海洋大学学術研究院教授）

東京海洋大学の田中祐志です。2014年4月から2016年3月までの2年という短い間でしたが、本学会の事務局を担当させていただきました。高橋会長の下、高知大学の深見公雄さん、大阪府立大学の太塚耕司さんと続いた事務局を引継ぎ、重責を痛感する日々でした。振り返ってこうすればもっと良かった、と思うことが多くありますが、一方で僅かながらも貢献できたようにも思います。今は、重責から解放されて安堵しております。

この間、会務の簡素化・迅速化と会の赤字緩和に留意し会費滞納者数の縮減に注力しました。また、会誌「海洋深層水研究」のバックナンバー全巻のPDF化により、過去のいずれの論文も学会ウェブサイトから落手可能になりました。さらに、会員名簿を整理し昨年度末の理事選挙の際に皆様に配布することが出来ました。

いずれにせよ、大過なく任期を終えることが出来ましたことは皆様のご支援のお陰と心から感謝しております。ありがとうございました。私個人にとりましては、総会や全国大会で会員の皆様と知り合う機会を得、さらに伊万里や久米島の皆様と共に働くというご縁を得ましたことは、何物にも代え難い経験となりました。高橋会長を始め、理事、個人会員、団体会員の皆様のご支援とお心遣いにこの場を借りまして篤く感謝申し上げます。

会の発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

訃報

本学会の前身であるJADOWAの設立発起人の一人で、DOWASで選挙管理委員長も務められた下村嘉平衛（しもむら・よしひら＝元ハザマ〈現安藤ハザマ〉常務）様が2016年4月21日午前7時、虚血性心疾患のため東京都江東区の病院でご逝去されました。享年78歳。

日本の海洋開発の代表的プロジェクト、白島洋上石油備蓄基地、本州四国連絡橋、東京湾横断道路などの建設で多大な業績を残されました。

数多く人材を育成され、教え子の末席を汚す私も人工海底山脈の開発等で多大な支援を賜りました。心からご冥福をお祈り致します。